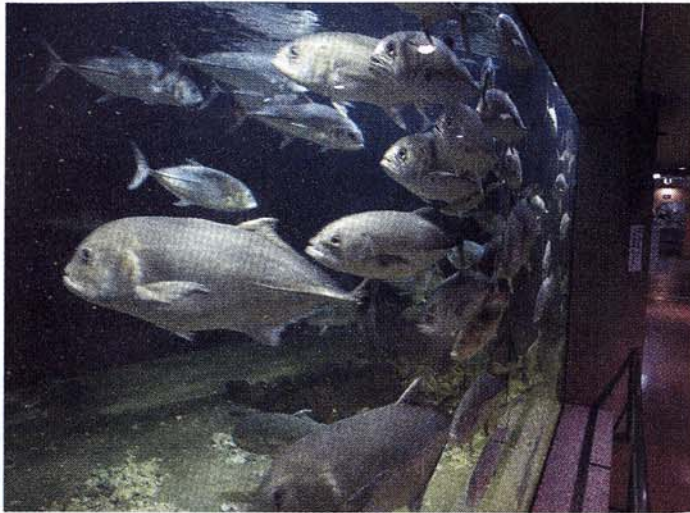


## 出迎えるヒラアジ



△大水槽で泳ぐ1日前後のヒラアジたち  
(水槽番号101)

# 水族館へ行こう!

### 京都大学白浜水族館

3

## 山本 泰司

入館して最初に目が合うのがヒラアジの仲間だ。60センチから1メートルを超える魚たちが、群れを成して出迎えてくれるものだから、この大水槽前では

# 小魚襲う海のハンター

しばしば歓声が上がります。ヒラアジは、アジ科の中でも体が平たく、体高が高い魚の総称で、とり

が夏から晩秋にかけて、内湾や河口で10〜20センチの幼魚が見られる。これらは、南の海で生まれた稚魚が黒潮に乗って来たものだ。紀南地方ではまとめて「メッキ」と呼んで、ルアー釣りの対象魚として人気がある。

白浜水族館ではメッキを毎年収集しており、1年間「内湾・川口の魚」という水槽で展示。その後、大水槽内の「幼魚育成いけす」で約40センチまで育てる。というのも25センチほどの幼魚をいきなり大水槽に入れると、大きな

わけギンガメアジ属に代表される。白浜水族館で育てているのはギンガメアジ、カスミアジ、ロウニンアジの3種。これらはさんご礁周辺の回遊魚で、小魚を襲うハンターだ。

紀伊半島沿岸では大水槽にいたような成魚を見ることがほとんどない。紀伊半島沿岸では大水槽にいたような成魚を見ることがほとんどない。反応しているのだ。

釣りをしていて、小魚が釣れたり、餌を交換しようとしていたりして仕掛けを引き寄せていると、数匹のメッキが突然現れ、餌や掛かった小魚に向かってつっこむことがある。小さいながらもすでにハンターの資質を持ち、餌となる動物の異常な動きに反応しているのだ。

先輩たちにあつという間に食べられてしまうからだ。

(京都大学技術専門職員)